

おわりに

## いい川・いい川づくりの共有化と概念化

「いい川」とはなにか？

これまで多くの人たちと川について話し合ってきた。その感想を率直に述べれば、ほとんどの人が、自分なりの「いい川」のイメージをもっている、そして視点や語り方は各自各様であるがイメージする内容(コンテンツ)はそれほど違ってない、というのが実感である。

ところで、これまで「いい川」の概念が社会的通念として規定され、さらに基準化、政策化されたことは一度もなかった。そのことが、コンクリート化された川をいい川と勘違いする錯覚や、現代の川争いを生じさせる一因ともなっている。

概念化等されなかった背景には、一つは、心ではいいものと想いながらも口では「つまらないものですが…」とってしまう日本人の気質と関連してしよう。二つは、従来の川づくりにおいては「川づくり＝工事」の河川観が強く技術論が先行し、ホリスティック（全包括的）な「いい川」とは何かの議論が軽視されるとともに、土木外、専門外からの発言を素人の口出しとして耳を傾けない風潮のあったことである。三つは、何よりも川や川づくりについて、行政と市民間に合意形成の場がなく、共有化されなかったことであろう。

川づくりをめぐる不幸な対立を回避し、よりよい川づくりを行っていくには、何よりもまず多くの人々が内面でもっている「いい川」のイメージの共有化と概念化が求められよう。その場づくり（デザイン）が、「川の日」ワークショップの大きな目的でもある。

3回を通しての感想を述べれば、何よりも第1は、治水、環境、生態といった枠を越えて福祉、まちづくり、原風景、子ども、川の活性化、パートナーシップ、参加等々、毎年次から次ぎへとキーワードが生まれ、まさにホリスティックな川づくりの胎動を感じることである。第2は、「いい川」と「いい川づくり」の境界領域が増えてきていることに端的にみられるように、内容（コンテンツ）とともに過程（プロセス）を大切にしたい川づくり、あるいは脱工事や工事跡の見えない川づくりなどの広がりである。「いい川」とは何かの概念化ももう間近という感じがしている。

なお未登場の分野に、〇〇川の味（鮎、鰻、もくずがに、手長エビ…）は日本一、あるいは維持管理における工夫やエントロピーの低い川づくりなどまだまだたくさん有りそうな気がする。

第4回を楽しみにしています。

「川の日」ワークショップ実行委員長  
森 清和（全国水環境交流会代表幹事）

- 第1回「川の日」ワークショップ（1998年7月5日）グランプリ
  - 私の名流・名川部門：
    - 球磨川（熊本県）「川は山から海まで森羅万象すべてをつなぎとめる川づくりで賞」
  - みんなに愛されるいい川づくり部門：
    - 八東川（鳥取県）「やわらかい住民参加により創造的川づくりで賞」
- 第2回「川の日」ワークショップ（1999年7月3日・4日）グランプリ
  - A “いい川” 部門：
    - 通船川（新潟県）「人々の意思と楽しさとトキを花筏にのせて、夢の船が通るで賞」
  - B “いい川づくり” 部門
    - 城原川（佐賀県）「草堰（くさぜき）の原風景を再現するワザとチエを束ねつつ、みえぬ生命への想像力をかきたてたで賞」

## 第3回「川の日」ワークショップ実行委員会

### ●実行委員名簿

北海道地区	伊東 孝	菅谷 輝美	森 清和	宮口 侗迪	四国地区	関係機関
荒関 岩雄	犬山 清史	千賀 裕太郎	矢萩 隆信	森 誠一	入江 隆彦	足立 敏之
菊池 静香	伊納 浩	田中 栄治	山道 省三	山田 勝清	西内 燦夫	池内 幸司
嶋田 浩彦	延藤 安弘	田中 喜美子	山本 耕平	近畿地区	福留 脩文	石橋 良啓
高井 豊	大澤 浩一	田中 哲夫	吉村 伸一	大滝 裕一	福永 泰久	上野 敏孝
中村 太士	大野 重男	田中 信明	吉本 玉子	嘉田 由紀子	九州・沖縄	大平 一典
山内 忠明	小笠 俊樹	鏑山 英次	霊山 智彦	片寄 俊秀	今泉 重敏	小川 鶴蔵
柳沼 武彦	沖 大幹	堂本 泰章	渡部 一二	川上 聡	上野 敏孝	上総 周平
東北地区	小倉 紀雄	内藤 裕子	中部地区	田口 圭介	榎本 敬子	紀陸 富信
金子 博	長田 光世	長野 正孝	大熊 孝	塚本 明正	岡 裕二	工藤 啓
軍司 俊道	神谷 博	廣崎 芳次	風間 ふたば	土谷 朋子	児玉 澄子	栗原 秀人
高橋 万里子	川名 登	福富 洋一郎	北村 眞一	中農 一也	崎山 正美	島谷 幸宏
新川 達郎	君塚 芳輝	増田 直也	木幡 雅好	福広 勝介	田中 秀子	布村 明彦
関東地区	草野 重芳	三井 元子	榊原 惣一郎	中国地区	濱崎 勝	宮尾 博一
荒木 稔	桑子 敏雄	宮村 忠	相楽 治	安藤 周治	浜辺 誠司	山田 邦博
石田 幸彦	小堀 洋美	宮本 善和	桜井 善雄	小谷 寛二	原口 泉	若林 伸幸
磯 ちず子	笹木 延吉	虫明 功臣	竹内 礼子	竹原 和夫	広松 伝	
井田 安弘	柴田 敏隆	望月 史郎	中村 文明	友延 栄一	右田 いくみ	(計 120名)
井出 隆雄	進士 五十八	森 伊佐男	野田 佳江		吉田 廸夫	

- 構成団体：全国水環境交流会、NPO法人 自然環境復元協会、社団法人 日本河川協会
- 事務局：全国水環境交流会 山道 省三

\*第3回「川の日」ワークショップは「河川整備基金」の助成を受けて行われました。

2001年3月発行

第3回「川の日」ワークショップ実行委員会

事務局：〒150-0001

東京都渋谷区神宮前1-10-34-501

山道アトリエ内

TEL03-3408-2466

「川の日」ワークショップホームページ

<http://homepage2.nifty.com/icas/kawanohi/index.htm>

本書は再生紙を使用しています